

京都の靖國寺

やすくにでら

京都の宇治と言えは世界遺産の平等院を始めとして、宇治上神社や万福寺などの観光名所が有名だが、この宇治に「靖國寺」がある。国のために一命を捧げられた246万余柱の英霊を合祀する東京九段の靖國神社に対して、仏式で英霊を合祀する日本唯一のお寺である。曹洞宗大本山永平寺の直末寺院「鳳翔山靖國寺」（中井英正住職）で、琵琶湖に源を發する宇治川下流左岸の山中に位置している。

「靖國寺」が落慶法要を営んだのは、終戦直後の昭和24年のことだが、寺院建立までには20年に及ぶ苦難の歴史が刻まれている。寺伝によると、昭和4年、当時大阪八幡の神徳寺住職であった中井祖門禪師が「靖國神社に代わるべき仏教代表寺院の建立」を發願され、時の田中義一首相の賛同を得たのが寺院建立の始まりである。祖門禪師が努力の結果、昭和9年に宇治での「靖國寺」建立にこぎつめた。日中戦争の勃発という厳しい社会状況の中、昭和16年には信徒や支援者からの寄進・浄財を得て、間口8間、奥行き7間、檜造り瓦葺の本堂建設に着工、昭和18年11月に入仏式、そして終戦間際の昭和20年4月に完成した。本堂のご本尊は、ミヤンマーから伝来した釈迦牟尼座像

である。日本が平和を取り戻して、中井祖門禪師が目指した鎮魂の寺は、「勤皇山靖國寺」として昭和24年4月に落慶、戦没者の遺骨、無縁の英霊を全国各地から奉安置した。そして、昭和26年には、「靖國神社」から戦没246万余柱の御分霊をお迎えしました。昭和63年には、現在の山号「鳳翔山」に改号された。昭和63年に完成した山門は2層式、両脇に仁王像を安置する堂々とした構えである。表には現在の「鳳翔山」を、裏には以前の「勤皇山」の山号額を掲げている。書は大本山永平寺の宮崎突保78代貫主による。本堂の左隣には開山堂（昭和12年建立）があり、山門の右隣の不動堂（昭和26年完成）には一願成就不動明王像や重文級の絹本十二支天図が安置されている。その他、多宝塔様式の仏舍利塔や、元伏見城の遺材を使った間口2間の鐘樓堂がある。

京都偕行会有志で参拝し、御分霊が鎮まる「靖國寺」の雰囲気味わうことができます。是非、一度訪れて頂きたいものです。

（京都偕行会会長 樋端一雄 記）

場所：〒611-0021
宇治市宇治金井戸7-14
京阪電車宇治駅、J-R宇治駅からタクシーで約10分。

